

保護者様

令和4年10月20日
京都市立洛央小学校
校長 竹村 知子

令和4年度学校評価（前半）を振り返って

学校評価にご協力ありがとうございました。

令和4年度学校評価（前半）の集計結果をお知らせします。先日は保護者の皆様、児童（低、高学年別）、教職員による評価（振り返り）のアンケート（インターネットを利用した回答形式）にご協力いただき、ありがとうございました。

洛央小学校では、「一人ひとりを大切に、学びの広がり、深まりとつながりのある学校～他者と協働し、学び合う子の育成～」を教育目標とし、教育活動を進めています。新型コロナウイルス感染症対策をしながらの教育活動は今後も続きますが、今回の集計結果を真摯に受け止め、後半以降の教育活動の改善に繋げていくよう活用させていただきたいと考えています。

① 友達や先生の話を聞くことができていますか。（保護者）

友達や先生の話を聞くことができていますか。（児童）

友達や先生の話を聞くことができるよう支援・指導できましたか。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	41%	49%	9%	1%
児童（高学年）	57%	39%	3%	1%
児童（低学年）	64%	28%	6%	2%
教職員	47%	51%	2%	0%

「人の話を聞く」ことについて、9割以上の回答者が、「そう思う」「大体そう思う」と答えていました。

洛央小学校では、様々な教科等の学習において、「お互いの考え方や気持ちを伝え合う活動」に重点を置いております。コロナ禍において、身体的な距離を配慮しながらコミュニケーションを取らなければならない状況の中では、これまで以上に「相手の思いをしっかりと聞き、理解を深めようとする意識」が大切になります。同時に、周りを取り巻く大人たちが子どもの話をしっかりと聞くことも大切だと考えています。安心して話せる環境づくりを心がけながら、子どもたちが多様な人々とコミュニケーションを取り、互いの考え方や思いを聞くことで、より視野を広げたり、学びを深めたりしていくように取り組んでいきたいです。

②自分の考え方や思いを話すことができていますか。（保護者）

自分の考え方や思いを話すことができていますか。（児童）

自分の考え方や思いを話すことができるよう支援・指導できましたか。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	23%	56%	19%	2%
児童（高学年）	38%	43%	16%	3%
児童（低学年）	53%	29%	13%	5%
教職員	45%	55%	0%	0%

「自分の考え方や思いを話すことができる」については、80%程度の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。一方、児童や保護者の回答の20%程度が「あまりそう思わない」「そう思わない」となっていました。

設問①の項目と比較すると、子どもたちにとって「相手の話を聞く」ことよりも「自分の考え方や思いを話すこと」に対して苦手意識や不安感を抱いている子が多くいます。コロナ禍になったことで、話すことを遠慮してしまう状況が続きました。そのため、どのように話せばよいのか分からず不安を感じている子どもたちがいるのも事実です。少しずつでも話す機会を増やしていくことで、子どもたちが自信をもち、よりよく話せるようになっていくと考えています。子どもたちが自ら話したいと思えるような学習場面、活動をこれからも設定し続けていきます。

③学習や活動にねばり強く取り組むことができていますか。(保護者)

学習や活動にねばり強く取り組むことができていますか。(児童)

学習や活動にねばり強く取り組むことができるよう支援・指導できましたか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	29%	55%	13%	3%
児童（高学年）	49%	40%	9%	2%
児童（低学年）	68%	23%	6%	3%
教職員	33%	64%	3%	0%

「ねばり強く取り組むことができる」については8割から9割の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。一方で、保護者の回答は15%程度が「そう思わない」「あまりそう思わない」になっていました。

学びを広げたり深めたりするには、苦手なことでも我慢して粘り強く取り組むという経験や実践が必要な時もあります。児童の成長にとって必要な時には、我慢してやり抜くことができるよう支援したり指導したりしていきたいと思います。学年が上がるにつれて、学習内容の難易度も上がり、取組も質の高いものを求められるようになります。挑戦したり乗り越えたりした時に友達や教職員が共に喜び、たたえ合うような関わりをしていきたいです。お家でも苦手なことをやり抜いた時などにほめる言葉をかけていただければありがとうございます。

④友達や周りにいる人たちと協力することができますか。(保護者)

友達や周りにいる人たちと協力することができますか。(児童)

友達や周りにいる人たちと協力することができるよう支援・指導できましたか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	39%	56%	5%	0%
児童（高学年）	65%	29%	5%	1%
児童（低学年）	68%	27%	4%	1%
教職員	44%	56%	0%	0%

「友達と協力すること」については、ほぼ9割以上が「そう思う」「大体そう思う」という回答結果でした。昨年度も同様の結果で、継続していることを非常にうれしく思います。

今年度は、コロナウイルス感染拡大防止の取組を大切にしつつも、小グループでの話し合い活動や課題グループでの活動、給食や掃除などの当番活動、たてわりグループや係の活動、委員会やクラブ活動、そして、スポーツフェスティバルのような学校行事において、同学年や異年齢の友達と力を合わせる場面を増やしていました。意見がぶつかることもありますが、お互いにとってよりよい方向性を探り、一緒になって課題達成に向けて協力していく体験は、本校が子どもたちにつけていきたい力の育成に大きくかかわってきます。今後も密を避けながら、友達と力を合わせる機会を検討していきたいと思います。

⑤進んで運動をしていますか。(保護者)

進んで運動をしていますか。(児童)

進んで運動をできるよう支援・指導できましたか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	36%	34%	24%	6%
児童（高学年）	54%	23%	14%	9%
児童（低学年）	70%	17%	10%	3%
教職員	37%	50%	13%	0%

「進んで運動すること」については、「そう思う」と回答した割合が立場によって様々でした。低学年児童は、非常に高く70%以上が「そう思う」という回答でした。高学年児童では54%とやや低調でした。ただし、「大体そう思う」を含めると、どちらも約8割の児童が運動していると回答していました。

健やかな成長のためには、一定の運動をすることも大切です。今年度は、朝時間や放課後の時間に校庭開放

する時間を設定しました。校庭で遊べる時間には、笑顔で元気に駆け回る姿が見られ、体を動かす楽しさを子どもたちは感じているようです。休み時間や体育の学習はもちろん、進んで運動できるような取組を今後も考えていくたいと思います。

⑥好き嫌いせずバランスよく食べていますか。(保護者)

好き嫌いせずバランスよく食べていますか。(児童)

好き嫌いせずバランスよく食べるよう支援・指導できましたか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	33%	42%	20%	5%
児童（高学年）	48%	35%	12%	5%
児童（低学年）	56%	31%	11%	2%
教職員	60%	33%	7%	0%

「好き嫌いせずバランスよく食べること」については「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した保護者が約25%、高学年児童が約17%、低学年児童が約13%でした。「そう思わない」割合が依然高く、低値～ゼロを目指し、改善の意識を伸ばしていきたいところです。

成長をしていく上で、食事は大切な要素の一つです。学校給食では栄養のバランスを考慮して献立を作成しています。また、栄養教諭が中心となり、食に興味を持てるように食育指導を工夫しています。今年度は給食後の児童の感想を取り入れ、子どもたちのおいしいと感じたり、苦手でも頑張って食べられたりした体験を学校全体で共有したりする取組を実施しています。今後も学校と家庭とが連携してよりよい食事ができるよう支援指導していきたいと思います。

⑦毎日必ず朝ごはんを食べていますか。(保護者)

毎日必ず朝ごはんを食べていますか。(児童)

毎日必ず朝ごはんを食べるよう支援・指導できましたか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	84%	11%	3%	2%
児童（高学年）	83%	10%	4%	3%
児童（低学年）	87%	10%	2%	1%
教職員	28%	59%	13%	0%

「朝ごはんを食べている」という設問については、保護者・児童ともに「そう思う」「大体そう思う」という回答が9割以上という結果でした。家庭でも朝食の大切さを感じていただき、普段から朝食を子どもたちに食べさせて学校に登校させてくださっていることを、感じさせられました。

一方、一部の児童の中には朝ごはんを食べずに登校している様子が見られます。「朝食は一日の活力の土台」といえます。また、成長期の子どもたちにとって重要なエネルギー源です。教職員が「そう思う」と答えている数値が他者と比べて低いことを受け止め、今後の指導を引き続き、大切にしていきます。

⑧安全に気を付けて生活することができますか。(保護者)

安全に気を付けて生活することができますか。(児童)

安全に気を付けて生活することができるよう支援・指導できましたか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	50%	44%	5%	1%
児童（高学年）	71%	25%	3%	1%
児童（低学年）	76%	20%	3%	1%
教職員	59%	41%	0%	0%

「安全に気を付けて生活すること」については、8割から9割が「そう思う」「大体そう思う」という回答で

した。

日常生活の中で、「安全に気を付ける」という場面は数多くあります。実験で器具の正しく扱ったり手順をしっかりと確認したりすること、調理実習で火傷に注意すること、運動中に周りの様子を確認すること、廊下を走らずに歩くことなど学校の場面でも様々な場面で安全に気を付けて生活をしています。

その中でも、交通安全については十分な注意を払ってほしいと思います。事故が起きてしまってからでは取り返しがつきません。ついつい歩道を走ってしまったり、歩道から外れてしまったりしている児童の姿を見かけることもあります。安全に対する高い意識を実際の行動に表すことができるよう、上半期は、低学年を中心に、警察や地域の方による安全についての歩道歩行体験や人形劇鑑賞、自転車乗車体験を行いました。来年度も指導を続けていきたいと思います。また、警察や子ども見守りたい、PTAなどの皆様とも協力する取組も同様に進めていければと考えています。

⑨自分のきめた目標にむけてがんばることができましたか。(保護者)

自分のきめた目標にむけてがんばることができましたか。(児童)

自分のきめた目標にむけてがんばができるよう支援・指導できましたか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	27%	58%	12%	3%
児童（高学年）	52%	35%	11%	2%
児童（低学年）	64%	30%	5%	1%
教職員	54%	44%	2%	0%

「目標をもってがんばること」については「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した保護者で約15%、高学年児童が約13%、低学年児童で約6%でした。おおむね子どもたちは、目標をもってチャレンジしている活動に取り組んでいると感じているようです。

京都市では「生き方探究パスポート」の運用を進めています。子どもたちが「なりたい自分」に向かって、自分をじっくりと見つめる大切さを感じさせることができます。自分の良さや得意なことを自覚し、自分の成長を見つめることで将来の目標にも意識を向ける機会になればと思います。

授業では、どんなことを学習するのかを明確にして学習を進めています。今後も学習や取組において、どんなことを目指すのか、どのような力を付けていきたいのかを児童に示しながら、活動をしていきたいと思います。ご家庭でも学習や生活の中での目標についてお話しitただく機会をもっていただければありがとうございます。

⑩自分からすすんであいさつをすることができていますか。(保護者)

自分からすすんであいさつをすることができていますか。(児童)

自分からすすんであいさつをするができるよう支援・指導できましたか。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	29%	49%	19%	3%
児童（高学年）	56%	29%	12%	3%
児童（低学年）	65%	21%	10%	4%
教職員	40%	56%	4%	0%

「自分からあいさつをする」という設問に関しては、立場によってばらつきが見られました。特に「そう思う」と答えている人が「児童」と「大人（保護者・教職員）」で差があり、認識のズレがありました。

人からあいさつをされた時、必ずあいさつを返すはずです。これは人としてのマナーといえます。しかし、それであいさつをしたと感じている子どもたちも多いのかもしれません。「自分からすすんで」という言葉の通り、「人からあいさつをされる前に、先にこちらからあいさつができる」ことは、相手に親近感を抱かせ、コミュニケーションがとりやすくなります。「あいさつは人間関係づくりの第一歩」という言葉があります。ぜひとも自分から進んであいさつができる、そんな子どもたちを育てていきたいと思っています。